

特定非営利活動法人日本文化体験交流塾 理事長 米原亮三

事項		現状と問題点	提 案
新人研修	基礎研修	<ul style="list-style-type: none"> ・各通訳案内士団体が4～5日のスケジュールで、スキルアップ・プログラムに基づいて実施している。 ・テキストは、各通訳案内士団体等で作成しているが、統一性がない。 ・新人研修内容の多くは、旅程管理にさかれているが、通訳案内士の多くが旅程管理主任者講習会を受講している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国が中心になって、標準テキストを作成すべき。今後の「通訳案内士研修の高度化に関する検討会」に期待する。 ・標準テキストの一部は、通訳案内士試験の試験問題にも活用できるものとする。 ・旅程管理主任者講習会との関係を明確にする。例えば、旅程管理主任者講習会修了者は、新人研修の旅程管理を受講しなくて良い等。
	通訳案内士団体が自主的に行なう専門研修	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人のニーズが多様化しており、それぞれの専門性に応じた多様な研修が必要。 ・当交流塾では、語学・表現力、地域、体験型観光、日本文化、産業、茶道等様々な研修を実施している。 ・これらは、有料であり、受講者の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の山梨、秋葉原の専門性研修は、座学中心で、実地研修が少ない。多くの通訳案内士は、先輩ガイドに学びたいと思っている。 ・専門性が高い研修は、多様となるので、各通訳案内士団体が工夫をして実施すべき。ただし、受講者の負担を軽減するために、以下の経費を国が支援すべきと考える。
専門研修	日本観光協会委託事業	<ul style="list-style-type: none"> 受講希望者が多いが、以下の問題点もある。 ・無料であるので、真に受けたい人を選べない。また、キャンセルが多いなど、意識も低い人もいる。 ・支払い基準が厳しく、見積りのないコピー代等一部実費が支払われない。 ・経理等事務が大変で、それに相当する管理経費の支払いが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①バスの借り上げ料 ②講師謝礼及び派遣旅費 ③通訳ガイド検索システムやFace Book等情報発信研修におけるパソコンルームの借り上げ料 ・印刷費、受付、通信等その他の経費については、各団体が受講者から受講料を徴収し、管理費・運営費を賄う。

平成 22 年度特定非営利活動法人日本文化体験交流塾 通訳案内士等研修実績(計 98 日)

	月 日	テーマ	講師名
通訳案内士新人研修(6日)			
1	2月12日(金)	新人対象セミナー 「通訳案内士を取り巻く状況と期待」	安田彰、赤松靖之、 魚地啓吾、米原亮三
2	2月24日(水)～ 28日(日)	通訳案内士新人研修(5日間) ・スキルアップ・プログラム準拠	山口和加子、保里陽子、 黒石陽子、小嶋秀史
日本観光協会受託研修会(7日)			
1	6月28日(月)	情報発信力向上講習会 初級	小嶋秀史
2	7月5日(月)	情報発信力向上講習会 中級(1)	小嶋秀史
3	7月7日(水)	情報発信力向上講習会 中級(2)	小嶋秀史・米原大介
4	9月8日(水)	富士山・河口湖実地研修会	保里陽子、米原亮三
5	9月13日(月)	琵琶湖西地域実地研修会	山口和加子、米原亮三
6	9月14日(火)	京都市内実地研修会	岩村和子
7	10月5日(火)	東京国立博物館・英語による茶道実地研修	河野哲郎、山口和加子
語学・表現力研修(11日)			
1	11月26日～12月17日(金)	通訳技術スキルアップ研修会(4日間)	柴田バネッサ
2	9月17日(金)～10月8日	通訳技術スキルアップ研修会(4日間)	柴田バネッサ
3	12月10日(金)	パフォーマンス・スキルアップ教室	山口和加子、稲場理恵
4	12月7日(水)、14日(水)	英語ガイドスキルアップ実戦教室(2日間)	保里陽子
地域研修(13日)			
1	2月20日(土)	向島芸者おどりと花街まち歩き	黒石陽子、米原亮三
2	3月12日(金)	鎌倉・ひな人形・初春の花を訪ねて	鎌倉研究会
3	5月18日(火)	江戸博・谷中ウォーキング研修会	山口和加子
4	5月21日(金)	大相撲5月場所見学と両国まち歩き	稲場理恵
5	6月1日(火)	高尾山・歴史と自然を訪ねるツアー	矢沢はるみ、宇留野
6	6月5日(土)	日光バス研修	山口和加子
7	7月1日(木)	第1回 横浜ツアー	秋元裕美子・石井郁子
8	7月6日(火)	秋葉原ウォーキング研修会	小嶋秀史
9	9月15日(水)	江戸博・谷中ウォーキング研修会	保里陽子
10	9月24日(金)	両国まち歩きと大相撲本場所見学	稲場理恵
11	9月24日(金)	大相撲9月場所見学と両国まち歩き	稲場理恵・米原亮三
12	10月12日(火)、13日(水)	長谷寺・鎌倉大仏・鶴岡八幡宮など	黒石陽子
13	12月9日(木)	川越研修会	イーグルバス
体験型観光のスキルアップ研修(6日)			
1	2月8日(月)	築地市場見学会	辻村学
2	3月5日(金)	築地まち歩きと寿司づくり研修会	辻村学、吉村敦子など
3	3月27日(土)	早朝の築地市場見学会	辻村学

4	3月27日(土)	築地市場見学会	辻村学
5	6月21日(月)	築地まち歩きと寿司づくり研修会	辻村学、吉村敦子など
6	9月27日(月)	築地まち歩きと寿司づくり研修会	辻村学、吉村敦子など
産業観光(4日)			
1	3月5日(金)	ロボット・スタディツアー	宇留野孝雄
2	3月19日(金)	川崎市スタディツアー	山田貴子
3	5月15日(土)	東京の現代建築研修会	土手英俊
4	7月30日(金)	東京の現代建築研修会(第2回)	土手英俊
英語による茶道教室(29日)			
1	1月20日(水)	初釜	山口和加子
2	3月10日(水)	特別講座:「茶道のこころ。」	山口和加子
3	4月7日~6月30日	初級コース・前期(各5回、以下同じ)	山口和加子
4	2月3日~6月23日	初級コース・後期	山口和加子
5	2月10日~6月16日	中級・前期	山口和加子
6	10月27日~2月16日	初級コース・前期	山口和加子
7	10月20日~2月9日	初級コース・後期	山口和加子
8	10月13日~3月9日	中級・前期	山口和加子
9	10月13日~3月9日	中級・後期	山口和加子
日本文化(17日)			
1	1月27日(水)	風呂敷包み講習会	イナバ リエ
3	3月23日, 5月11日, 9月28日	江戸千家・茶道教室「正午の茶事」	大河内宗紗
4	3月25日(木)	中世その1「禅と能」	水野聡
5	4月12日(月)	和本入門	橋口侯之介
6	4月20日(火)	中世その2「矢来能楽堂見学体験」	水野聡
7	4月22日(木)	着物通養成講座「着物の基本:格とTPO」	黒柳聡子
8	4月27日(火)	落雁づくり講習会	北村征義
10	5月28日(金)	中世その3「武士道と俳諧」	水野聡
11	6月10日(木)	神田明神で神々を学ぶ	清水氏ほか
12	6月14日(月)	中世その4「茶道、日本建築と庭」	水野聡
13	6月23日(水)	着物通養成講座 第2回	黒柳聡子
14	7月8日(木)	「和紙入門」(お話と体験)	田村正
15	7月8日(木)	「和絵具入門」	杉田桂子
17	10月1日(金)	立ち居・ふるまいを学ぶ	古戸田恵子
I J C E E 国際交流サロン(4日)			
1	1月14日(木)	ワイン入門・ブルゴーニュ編	谷口洋子
2	8月10日(火)	フランス語部会国際交流サロン	Vanessa Rau
3	10月29日(金)	服部祐子さんと日仏文化交流を語る	服部祐子
4	11月2日(火)	英国人に学ぶ日本文化紹介の秘訣	Maggie Healy

特定非営利活動法人日本文化体験交流塾に寄せられた意見(要旨)

通訳案内士は、常に自分のガイディングスキルを高めて行かなければいけないと思いますが、そういう機会が少ないと思います。各分野の博物館、美術館、資料館、日本庭園などの研修会をその分野の専門家をお招き、定期的にやってほしいです。1回のみでは、効果がありません。

通訳案内士のレベルが全体的に低いということが、検討委員会でも出されていましたが、確かに、ライセンスをとっただけで何も勉強しなかったら、レベルは向上しません。それで各ガイド団体が企画実施する研修が重要になります。様々な研修が今でも各団体でそれぞれ行われています。

私は、現在行われている日本観光協会の全額補助金による無料実施の研修方式ではなく、一定のレベル以上と判断される研修を決められた量をこなすことを条件に、ガイド団体の実施する研修を公的に補助してもらった方が良いのではないかと考えます。

全額無料で行うと、映画を見に行くより安いので、あまり勉強熱心でない人も出てきて、肝心の勉強熱心の人が締め出されてしまうことが起こります。非会員でも無料となると年会費を払う意義がなくなります。各団体が行う研修や勉強会の内容、出席率、アンケート結果を提出すると良いと思います。非会員はたとえば30%増しの参加費をもらうとかしたら、どうでしょうか？また、ガイド研修手帳のようなものを発行し、研修に出た記録を年末に提出して、…年一定の研修済（研修に出る回数で規定する）というような印鑑を押してもらってそれを保持するシステムを作ったら良いと思います。

観光庁で研修の高度化を実施することは結構なことと思いますが、京都、山梨、東京で計三つの研修が行われるとして、問題は何人の通訳案内士がこれを受講することができるでしょうか。定員があるので一人の通訳案内士が行ける確率はかなり低い筈です。多くの通訳案内士から見ると、くじ運が悪ければこれらの研修はないのと同じです。研修をこの場所でこれこれの内容で実施すればいい、というのはお役人の発想です。実際にどれだけ現実的なプログラムなのか、例えば同じ研修だったら複数の場所で実施するとしなければ意味がありません。形式だけ整えるのではなく、現実的な観点にたち実質をとまなう形で研修を行ってくださいますようお願いいたします。

また、55人存在している「地域限定」の通訳案内士の方々にはこういう機会を提供しているのでしょうか。「地域限定」の仕組みを作ったのですから、観光庁には、この人達に仕事を提供する責任があると考えます。

高名な講師、大学教授、学芸員、外国人タレント等を招きパワーポイントを見せられ終日室内で一方向的に聞くだけの座学を受けてもしょうがないと思います。

通訳案内士の高度化にとって、一番良い研修は、先輩のアシスト（添乗）としてツアーに参加することです。通訳案内士のライセンスは、経験を積まないと価値がありません。新人はOJTで経験を積んでいきたいのですが、昨今そのように仕事をしながら後輩を育てる余裕のある先輩がいないと思います。旅行会社も正社員でもない通訳案内士を、仕事を通して育てていません。

新人も半年以上も研修ばかりしていると現場に出て力を試したくなる。現場でマイクを持たなければ話にならない。通訳案内士研修はあくまでも会議室ではなく、講義、講釈はバスの中か午前中の2時間を室内で座学し、あとは外での現場主義で行ってほしい。